

志賀原子力発電所 原子力事業者防災業務計画の届出

2022年3月15日
北陸電力株式会社

本日（3月15日）、志賀原子力発電所 原子力事業者防災業務計画^{※1}を内閣総理大臣及び原子力規制委員会に届け出ましたのでお知らせします。

当社は、志賀原子力発電所 原子力事業者防災業務計画（以下、「計画」）の修正について、石川県、志賀町及び富山県との協議^{※2}が終了したことから、本日（3月15日）原子力災害対策特別措置法（以下、「原災法」）第7条第3項^{※3}に基づき、内閣総理大臣及び原子力規制委員会へ届け出ました。（別紙参照）

当社としては、引き続き、緊急時対応体制の継続的改善に取り組むとともに、志賀原子力発電所の更なる安全確保に万全を期してまいります。

以上

別紙：「志賀原子力発電所 原子力事業者防災業務計画」修正の要旨について

※1 原子力事業者防災業務計画

原災法第7条第1項に基づき、原子力発電所における原子力災害予防対策、緊急事態応急対策及び原子力災害事後対策その他の原子力災害の発生及び拡大を防止し、原子力災害の復旧を図るために必要な業務を定めた計画。

※2 石川県、志賀町及び富山県との協議

原災法第7条第2項において、原子力事業者は、計画を修正しようとするときは、修正しようとする日の60日前までに、原子力事業者の所在都道府県（石川県）、所在市町村（志賀町）及び関係周辺都道府県（富山県）に計画の案を提出して協議しなければならないことを規定。

※3 計画の届出

原災法第7条第3項において、原子力事業者は、計画を修正したときは、速やかに内閣総理大臣及び原子力規制委員会に届け出なければならないことを規定。

「志賀原子力発電所 原子力事業者防災業務計画」修正の要旨について

【計画の主な修正内容】

○緊急時対策支援システム（ERSS^{*}）伝送項目追加に伴う変更

国の緊急時プラント状況把握能力強化のため、志賀1号機及び志賀2号機の使用済燃料貯蔵プールに係る項目をERSS伝送項目に追加した。

○原子力防災資機材等の見直しに伴う修正

現在使用している「可搬型モニタリングポスト（中性子）」を、機能が同等で機動性の高い「中性子サーベイメータ」に変更した。

また、これまでの訓練を踏まえた改善として、原子力防災資機材以外の資機材（原子力事業所災害対策支援拠点用）にトランシーバーを追加した。

○その他

記載の適正化

等

※ERSS：Emergency Response Support Systemの略。国が、原子力施設から常時伝送されるプラントパラメータ情報を受け、原子力施設の状況を把握するためのシステム。

(参考 原子力事業者防災業務計画の主な内容)

項目	主な内容
第1章 総則	原子力事業者防災業務計画の目的、基本構想、計画の運用と修正及び定義
第2章 原子力災害予防対策 の実施	原子力防災組織の設置、原子力災害の情勢に応じた原子力防災体制の整備、通報や業務に必要な設備及び資機材の整備、原子力防災教育及び原子力防災訓練の実施、国・地方公共団体・地元防災関係機関との連携 等
第3章 緊急事態応急対策等 の実施	原子力災害対策特別措置法に基づく通報、本部の設置、原子力事業所災害対策支援拠点の設置、応急措置（応急復旧、原子力災害の発生又は拡大の防止、原子力緊急事態支援組織との連携、オフサイトセンターへの要員の派遣等）の実施 等
第4章 原子力災害事後対策	発電所の復旧対策、行政機関等への要員の派遣 等
第5章 その他	他の原子力事業者への協力

以上